



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四五〇号）

白露 はくろ
九月七日

神宮茶室

毎年秋分の日を中心に行われる伊勢神宮の秋の神楽祭かぐらさい。神恩に感謝し、国民の平和を祈る行事です。この期間、内宮神苑しんえんに設けられた特別舞台では舞楽ぶがくが一般公開されるほか、内宮神苑にある神宮茶室も庭上公開されます。

神宮茶室は、今からちょうど四〇年前、平成五年の第六十一回神宮式年遷宮に向けての遷宮諸祭が始まる年、昭和六〇年（一九八五）に完成しました。当時の伊勢神宮崇敬会会長の松下幸之助氏が献納したものです。神宮広報誌『瑞垣』みずがきには、松下氏は会長に就任したのを機に、十年ほど前から茶室を献納したいと考えていたが、場所の選定が難しく神宮の品位を汚すことになりかねないと願いのままにしていたが、二條大宮司より候補の場所をお示しいただき、設計に至ったと献納の経緯が記されています。

その選びぬかれた場所とは、内宮宇治橋を渡った内宮神苑で、参道の左側にあります。「紅葉山」と呼ばれる地で、参道とは小川が境となっています。このような清らかな小川が神宮神苑を流れていたとは驚きました。石橋を渡り、表門をくぐると中庭が、中門をくぐると表庭が広がっています。玄関と貴人玄関が設けられた建物は、檜皮葺ひわだぶき屋根の端正な佇まい。上段の間には広縁が巡られ、池を臨みます。緑豊かな庭は、赤松が影を落とし、雅やかな雰囲気が漂います。さらに進むと、こけら葺せいがけきの四畳半茶室「霽月」せいげつがあります。霽月とは、雨が上がった後の夜空に出る明るい月のことで、転じて、さっぱりとして、少しもわだかまりない心境「光風霽月」こうふうせいげつをいいます。当時の神宮祭主、鷹司たかつかさ和子様が名付けられました。茶室内は拝見できませんが、庭を巡っても十分に満足した気持ちになりました。年に二回の公開、四〇年の節目を迎えるこの秋は九月二十二～二十四日です。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 伊勢おかげ嬉楽祭

嬉しい楽しい気持ちを紡ぐ伊勢おかげ嬉楽祭へようこそ。

伊勢の伝統音楽と、縁のアーティストが奏でる音楽の出会いと共演のお祭りを伊勢の神様に奉納します。

伊勢の深秋の風にふかれ、心おどる音楽を「うためし」やお酒と共に、心ゆくまでお楽しみください。

日 時／11月3日（月・祝）15:00～20:00（14:00開場）

会 場／おかげ横丁一帯

先行販売／9月6日～9月23日

【前売】4,000円 お楽しみ券（屋台・遊戯）1,000円分 + 嬉楽祭手ぬぐい付き
※数に限りがございます。

前売一般販売／9月27日～11月2日

【前売】4,000円 お楽しみ券（屋台・遊戯）1,000円分

【当日】5,000円 お楽しみ券（屋台・遊戯）1,000円分

※小学生以下は本券1枚につき2名まで入場無料

【チケットの取り扱い】

先行販売／チケットぴあ

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 伊勢神宮御厨・御園めぐり

御厨・御園は伊勢神宮の神饌や経営資源などを供給する土地のことで、中世には全国40ヶ国に計600ヶ所以上存在しました。今回は現在の静岡県浜松市に存在した「遠江国蒲御厨」に関する北条時房下文などを読んで、鎌倉時代の伊勢神宮領と北条家領の関係などを読み解いてみたいと思います。中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎！！

日 時／9月22日（月）13:30～15:00

講 師／岡野 友彦（皇學館大学文学部長）

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

はぎ
萩

萩は草かんむりに「秋」と書きます。

芭蕉も「白露をこぼさぬ萩のうねりかな」と詠んで讃えたこの花は、秋の七草のひとつです。道明寺入りの葛で白餡を包み、秋風に揺れる花の姿を表現しました。

げっ
月 と
兎

9月になると空気がすっきりとして、夜空の月もいっそう明るさを増します。道明寺生地でこし餡を包み、下界にぴょんと降り立った、月の兎に見立てました。

み の り

収穫の時期となりました。伊勢の指定天然記念物である蓮台寺柿は、9月中旬になると地元の店頭に並びます。外郎生地で柿餡を包み、蓮台寺柿独特の角張った姿に似せました。